

熊本県（熊本市）の現地調査概要

- ・熊本県熊本市では、台風や集中豪雨により、昭和 28 年 6 月の「白川大水害」を始めとする水害が幾度も発生している。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、熊本県熊本市で現地調査を実施した。

調査日：平成 28 年 6 月 14 日（火）

調査地点：熊本県熊本市



▲調査箇所図

出典：国土地理院

【白川大水害の概要】

- ・昭和 28 年 6 月の九州一帯を襲った梅雨前線による豪雨は、西日本一帯に大きな被害をもたらした。熊本県では、6 月上旬から阿蘇地方に降り続いた雨で地盤が緩んでいたところに、6 月 26 日の豪雨で白川が増水し、大洪水となって沿川一帯に氾濫した。
- ・豪雨により阿蘇地方の各所で山崩れが起き、「ヨナ」と呼ばれる火山灰が洪水で流されて氾濫し、堆積したため、熊本市内は一夜のうちに泥の海と化した。

▼白川大水害による白川水系の被災状況

死者、行方不明者	422 名
罹災者総数	388,848 名
流失及び全半壊戸数	9,102 戸
浸水家屋	31,145 戸
農地流失埋没	13,717ha
農地浸冠水	29,797ha
橋梁流失	85 橋（熊本市内 14 橋）
被害総額	241 億円（現在価値換算 1,700 億円）

出典：九州地方整備局 HP

【白川大水害の被災状況】



▲代継橋



▲六甲橋



▲上通



▲下通 横丁



▲熊本市街（熊本市提供）



▲子飼



▲大甲橋から銀座橋方面

出典：九州地方整備局 HP

【白川大水害記録碑：熊本市中央区黒髪】

- ・白川大水害によって流失した子飼橋たもとの「白川大江新屋敷緑地」堤防沿いに「白川大水害記録碑」が建っている。碑文には、被災状況や水害の経緯が写真とともに掲載されている。
- ・子飼橋付近では、白川の左岸が溢れて大江町の130戸が流失し、200余名が濁流にのみ込まれた。記録碑の向いには地蔵堂が祀っており、現在もここで、大水害が発生した6月26日に供養祭が行われている。



▲白川大水害記録碑の位置（熊本市中央区黒髪）



▲白川大江新屋敷緑地の堤防沿いにある「白川大水害記録碑」



▲記念碑の向いに建つ地蔵堂



■白川大水害記録碑の碑文

「■S 28. 6. 26 水害とは

昭和28年は雨の多い年で、6月上旬ごろから阿蘇地方に度々強い雨が降っていました。

この長雨によって、阿蘇地方の地盤は高い湿潤状態になり、そこへ活発化した梅雨前線による未曾有の大雨が降ったため、白川はまたたく間に増水して大洪水となって沿川一帯に氾濫したのです。

6月26日、11時40分頃より市内低地で浸水がはじまり、15時5分に国鉄が運行を停止し、17時過ぎに安巳橋及び小碓橋が流失、18時過ぎに蓮台寺橋上流及び薄場橋上流両岸などの堤防が次々に決壊しました。その後、21時40分に代継橋が流失し、同50分には子飼橋左岸が溢れて大江町の130戸が流失し、200余名が濁流にのみ込まれました。

また豪雨により阿蘇地方各所で山崩れが起き、火山基層を覆う「ヨナ」が洪水で流されてきて氾濫し、堆積したため、熊本市内は泥土に埋もれてしまいました。

熊本市をはじめとする白川水系では、この洪水によって、死者行方不明者422名、負傷者1,077名、流失家屋2,585戸、浸水家屋31,145戸、橋梁流失85橋などという大被害を蒙りました。」